

質の良い農産物づくりに、防虫ネット・農薬を有効に利用しましょう！

☆虫の多い季節、害虫の被害を抑えるためには、防虫ネットがおススメです。

防虫ネットを利用することで、害虫による食害や、卵を産み付けられることをある程度予防できます。特に葉物では商品になる部分が害を受けますので、なるべく防虫ネットを張った栽培をしましょう。

防虫網で防げる害虫の目安

目合い	予防が期待できる害虫
1 mm	蛾類成虫・カブラハバチ成虫
0.8 mm	上記のほか 有翅アブラムシ類
0.6 mm	上記のほか キスジ/ミハムシ成虫・ハモグリバエ成虫
0.4 mm	上記のほか アブラムシ類成虫・コナジラミ類成虫

ヨトウムシやコナガなどの若齢幼虫は 0.4 mmでも通り抜けることがあります。

使用例



防虫網をかけるポイント

- ・防虫網を掛けた後、裾が開いていると害虫が侵入することがあるので、裾は直管パイプなどで押さえるか埋めます。
- ・支柱の高さをそろえるときれいに張れます。
- ・農薬と併用するとさらに効果的です。

☆播種時・定植時の粒剤・苗灌注処理を利用しましょう

播種時、定植時に粒剤や灌注処理の農薬を使用しておくことで、ある程度の期間、対象の病害虫を抑えることが出来ます。病害虫が出てしまったから薬液を散布するよりも手軽で簡単、手間も少ないので、それぞれの薬剤の登録内容を守って利用しましょう。

粒剤の量いかた

幅80cm長さ10mの畝に、1反に4kg土壌混和の粒剤を使いたいが、何gの薬剤を散布すればよいか？

面積の単位 重さの単位
10a = 1反 = 1000㎡ **1kg = 1000g**

1㎡に4g

- ① 散布する予定の畝の面積を出します。
 $0.8m \times 10m = 8㎡$
 幅×長さ＝面積
- ② 面積に対応した薬剤の重さを計算します。
 $8㎡ \times 4g = 32g$
 散布予定の面積×登録内容の使用量

粒剤を使用した場合の履歴の書き方

生産履歴に記入する使用量は、10aあたりの使用量または、1株(穴)あたりの使用量をラベルの記載にしたがって記入します。

例 フォース粒剤を非結球あぶらな科葉菜類に使用した場合

作物名	適用病害虫	使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
非結球あぶらな科 葉菜類	キスジ/ミハ ムシ	4kg /10a	全面土壌 混和	播種時	1回
	ネキリムシ類				

この場合であれば、1反に4kgこの薬を土に混ぜ込むという使い方になりますので、履歴に書き込む使用量は「4kg」となります。